

市場型間接金融に関する一考察

日本大学 亀谷 祥治

1. (研究の背景) 経済のグローバル化を前提に、金融においても間接金融から直接金融へのシフトが論じられて久しいがその潮流は遅々たるものである。そこで、市場型間接金融を中心として、間接金融、直接金融の並存という複線型の金融構造が現実的であると考えられるので、本稿では、市場型間接金融を前提としたインフラ整備及び金融機関の経営戦略考察を目的とする。2. 研究フレームワークとしては、第 1 に、従来の相対型の間接金融、市場型間接金融及び直接金融の異同を議論する。第 2 に市場型間接金融を中心としたインフラ整備に関して議論する。第 3 に、市場型間接金融を中心とした金融構造を前提に、金融機関はどのような経営戦略を講ずるべきか検討する。3. 本稿は従来型間接金融、直接金融も含めて市場型間接金融を中心とした複線的金融環境を前提とし、投資信託、シンジケートローン、プロジェクトファイナンスを中心とした金融機関経営戦略をポートフォリオ型、シナジー型の多角化に 2 分して議論していることに、新規性があると考えている。

4. (分析結果の概要) 第 1 に、従来の相対型の間接金融、市場型間接金融及び直接金融の異同を明らかにしたが、従来型の相対型の間接金融では、利鞘ビジネスの域を出ず、閉塞感があり、直接金融ではリターンを享受できるが、リスク分散をいかに考えるかの投資技術が前提になることから、市場型間接金融を中心とした相対型間接金融、直接金融並存の複線型金融システムが日本の金融にとって最適のシステムであると考えられる。第 2 に市場型間接金融を中心としたインフラ整備は、証券市場、債券市場及びその周辺ビジネスの整備、ポートフォリオ的発想の啓蒙、蓄積が重要である。第 3 に、市場型間接金融を中心とした金融構造を前提に、金融機関の経営戦略は、多角化に際して、シナジー型ではなく、ポートフォリオ型を選択することが期待され、情報生産機能、審査機能の深化も重要である。

5. (結論の考察と今後の課題) 市場型間接金融中心を前提として、金融機関の経営戦略として、利鞘ビジネスから投資銀行への展開が重要であり、その前提となる人材の育成強化、各種市場インフラの整備が課題となろう。と同時に、シンジケートローン、プロジェクトファイナンスいずれの場合においても、市場メカニズムを導入するが、リレーションシップバンキングによる情報の非対称性軽減は重要である。